

平成29年度 社小学校教職員による自己評価

※採点：4…できた 3…ややできた 2…ややできなかった 1…できなかった

1 研修について

(1) 主体的な研修≪3.5≫

「誰もが個性や能力を発信する研修の場を創造し、研修を高め合う。」

【成果や課題】

- 主体的に研究教科を選択し、自分の研究教科について課題解決に向けた研究が実施できた。
- 参加型、実習型の研修が行われており、教職員全員が能動的に学ぶ研修の場になっている。
- 抽象的な漠然とした研究のまとめではなく、児童の課題の改善に向けた具体的な取組や成果を出す。

【改善・確認事項】

- ★外国語・外国語活動についての校内研修の充実を図る。
- ★今後も参加型、実習型の研修を継続して行う。

(2) 検証的な実践≪3.0≫

「研究の道筋を具体的にし、その検証に努め交流によって深める。」

【成果や課題】

- ロジックツリー（個人の研究の方向、手立てを記したもの）があることで、筋道の通った研修ができた。同じ部会の中で、多くの意見交流ができて参考になった。
- 公開授業の事前研、事後研としっかりできていた。また、職員研修も充実していた。
- 各部での提案が多く、十分に共通理解されていないところもある。

【改善・確認事項】

- ★研究の検証をするために、単元テストの誤答の傾向、児童のつまづいたポイント进行分析する。
- ★校内研修で3部会の時間を定期的にとって、共通理解を行うようにする。

(3) 互恵的な学習文化≪3.2≫

「互いの学びを持ち寄り、支え合い教え合い、深め合う学習を定着させる。」

【成果や課題】

- 教科部での研修で様々な学年の教材に触れ、周りの教師から助言を多くもらった。学習の進め方で参考すべき意見がたくさんあり、普段の学習で活用することができた。
- 「協同学習」の手法が効果的に活用されていない（意図が明確でないグループ学習、学年による取組の差など）。

【改善・確認事項】

- ★協同学習の考え方と手法を再度研修することで、学びの深まりをねらう。

(4) 学力の定着<<2. 7>>

「基礎基本の定着を図り、学力を高めさせる。」

【成果や課題】

- 3部会が作成した「指導力UPポイント Q&A集」等で、指導のイメージができた。
- 授業の初めや休み時間等を利用して、反復練習を行うことで、基礎基本が定着した。
- はげみカード等のふりかえりで基礎を積み重ねられていると感じる。
- 全国学力調査の結果から、基礎基本のA問題に課題が見られるが、対応が遅れている。職員がその実態を知り、学校で力をつけていくのだという教師の強い気持ちが必要だと感じる。
- 日々、短時間での漢字ミニテストや計算練習などに取り組んだが、定着には時間がかかると感じた。
- 学習が遅れている児童へのサポートや進んでいる児童への発展的な課題の提供などが不十分だった。

【改善・確認事項】

- ★「教えるところ」「考えるところ」をはっきりさせ、活用場面にも時間をさけるような授業スタイルの構築を行う。
- ★漢字力、計算力の底上げをするためにくり返しドリルを有効活用する。
- ★全国学力量習状況調査の本校の結果を校内研修で検証し、共通理解を図る。

2 組織について

(1) 計画的なケース会議 学年会議<<3. 7>>

「時には広く、時には深く情報を集め、継続的・重点的なチーム指導を進める」

【成果や課題】

- 学年会が定期的に行われている。学年内だけでなく、生徒指導担当や管理職との共通理解にもなっている。個人のことだけでなく、学級全体の様子などについても触れていてよい。
- 学年での教材研究や生徒指導についての話など、毎週行うことで、共通意識をもって教育活動に取り組むことができた。
- 学年ではできるが、学年の枠を超えた児童理解・手立ての共通理解ができていない。
- 支援の必要な児童と周りの児童をつなぐこと（児童同士をつなぐこと）があまりできなかった。

【改善・確認事項】

- ★学年会議では、児童の課題に対してどんな手立てを打ち、どうなったか、さらにどうするのかまで話し合うことを心掛ける。
- ★学年を越えて情報交流の場を持つために、生活指導委員会の開催回数を増やし、学年間の連携を密にする。
- ★空き時間、休み時間等に他学年の情報を聞いたり、実際に見に行ったりするなど、積極的な情報収集を行う。

(2) 協同的な特支教育<3.0>

「児童理解を全校的に深め、よりインクルーシブな学びの場をつくる。」

【成果や課題】

- 特別支援学級から、参加型の授業研、啓発朝会など、教師の共通理解や児童への啓発に関する取組が行われている。
- 全校の授業事後研が児童の様子から振り返る内容だったため、全ての児童に合わせた授業を考えることができ良かった。
- 通常学級にいる特別な支援を必要としている児童への合理的配慮は十分かどうかの研修や交流があまりできていないように感じる。
- 学年ではできるが、学年の枠を超えた児童理解・手立ての共通理解ができていない。

【改善・確認事項】

- ★合理的配慮についての研修を夏休みに実施する。
- ★支援の必要な児童についての指導や配慮事項など、校支援で情報公開し、共通理解するとともに他の児童への指導の参考にする。
- ★支援の必要な児童についての交流を、年度初めと、終わりには必ず持つ。それに加えて、学期中も支援の仕方等について交流する時間を設けることで、それぞれのクラスでの支援の幅を広げられるようにする。

(3) 組織的な生徒指導<3.5>

「いじめ未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。」

【成果や課題】

- いじめアンケート、生徒指導担当のリーダーシップ、情報共有により、組織的な生徒指導が行えている。今年度は、学校内でのトラブルが非常に少なかった。
- 業間休みや昼休みなども使って、迅速に組織で対応できている。校支援の掲示板で指導事項について情報を共有することも児童理解などの点から効果的であった。
- 普段からよく児童を観察し、普段と変わったことがあれば学年会や生徒指導担当への報告があったので、未然防止・早期発見に繋がった。

【改善・確認事項】

- ★生活指導委員会やいじめ防止対策委員会の定期開催を実施する。
- ★アンケート等を交友関係把握に役立て、普段からよく児童を観察し、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応に努める。
- ★各学年や特別支援学級児童、不登校児童の状況、取組、成功例等を掲示板で情報提供していく。

3 環境について

(1) 意欲向上の掲示物<2.7>

「学習意欲が向上する計画的・継続的な掲示を工夫する。」

【成果や課題】

- 職員室前の廊下の掲示を教師や児童が見ることで、自学ノート等の充実が図られた。
- 学習の積み上げ、定着を目的とする教室の学習に関する掲示の充実が望まれる。

【改善・確認事項】

★学年で教室の学習に関する「暗記事項」「学習の積み上げ」等が分かる掲示を計画し実行する。

（2）美しく安全な学校＜3. 0＞

「きちんと清掃・修理・整理され、そして、花いっぱい 학교を維持する。」

【成果や課題】

○10分掃除や掃除開始時刻までに掃除場所に行く行動が定着した。

【改善・確認事項】

★10分掃除を今後も継続する。10分掃除導入で確保された終わりの会の時間で、一日の振り返りの充実を図る。

※以前、15分の掃除でしたが、終わりの会でしっかりと一日の振り返りをする時間を確保しようということで、10分間掃除になった。

★校舎の安全（老朽化対応等）確保を引き続き行う。

4 開かれた学校について

（1）積極的な情報提供＜3. 3＞

「各種通信、HP、学校オープン等で学校情報を保護者、地域に提供する。」

【成果や課題】

○学級通信・学年通信などの様々な方法で、学級や学年の様子がわかる情報提供をしている。

○毎日、児童の様子を連絡帳で伝え、連携をとるようにした。

●HPの更新が不十分だった。

●学級通信を、あまり出していない。

【改善・確認事項】

★通信は、児童や学級の様子を知ってもらうために、学年である程度歩調を合わせる。

★HPは月に数回程度の更新をする。

（2）地域の活用＜2. 8＞

「授業や行事などで地域を活用するとともに、感謝の心を育てる。」

【成果や課題】

○地域探検で、社の自然を発見できた。また、地域の方にもお世話になり、その思いを感謝状でまとめた。

○ごりょうが丘では、地域の方とのつながりができた。

○ごりょうが丘でのふるさと加東の取組や発表が良かった。

○ありがとう集会では、見守り隊の方への感謝の気持ちをプレゼントや出し物という形にすることにより、自分たちが恩恵を受けていることを再認識させることができている。

○行事を通して、地域への感謝の思いが育っている。

○加東遺産めぐりで、地域の方にお世話になり良かった。

○社会科の授業で、地域を題材とした授業を行った。

○食育活動として、社高校の生徒に先生になってもらい、児童も喜んでいた。

- 行事では、地域の方に思いを伝える場があるが、授業では、地域の活用が難しい。

【改善・確認事項】

- ★地域の人材バンクの充実を図り、食育活動、総合的な学習、社会科で地域の方にゲストティーチャーとして学校に来てもらう。
- ★年間指導計画の中に、地域教材をつかったり、地域の方の協力を得たりする学習を位置付ける。
- ★地域人材を活用した学習の実践を保存する。

5 自律力について

(1) 主体的な規範意識<<3.0>>

「ルールやマナーの理由を児童自ら考えさせ、児童会からの積極的な発信を促す。」

【成果や課題】

- 児童会からの提案が多くあり、児童の自治力向上につながっている。
- 委員会を単位とした規範意識を向上させる取組がよかった。例えば、運営委員会、生活委員会、美化委員会など。
- 児童会からの発信はたくさんあったと思う。しかし、クラスからは、改善案等の意見をやしろっ子委員会（児童会運営委員会）の場にもっていくことはできなかった。
- 児童に話をするときや何かを伝えるときは、「なぜ」をしっかりと伝えるということを大事にしている。少し難しいような話でもしっかりと理由を話すことで、児童の中で納得してできているように感じる。しかし、悪いとわかっているにもかかわらずやってしまうということもある。

【改善・確認事項】

- ★4時下校の時、集合・話・挨拶を最初から運営委員に任せてみる。
ただし、教師みんなで整列・静かにさせる指導をし、運営委員をバックアップしていくことが条件である。
- ★全校を巻き込んだキャンペーンは、計画的に行い、やしろっ子委員会でも伝え、前もってお知らせをする。（重ならない工夫。集計の工夫。やりっぱなしにしない工夫。）

(2) 熱心な清掃活動<<3.0>>

「すべきことを与え、考えさせ、掃除を最後まで頑張る児童を育てる。」

【成果や課題】

- 「もくもくそうじ」を意識して取り組んでいた。「もくもくそうじ」ができているかのキャンペーン中は一段と意識ができていた。
- 一生懸命に掃除をする児童が多い。教師の意識が直結する活動だと思う。教師の高い意識を継続することが必要だ。
- 使い終わった歯ブラシなどを用意しておき、早く終わった児童から使えるようにしておく、てきぱきと掃除をして、見つけ掃除をしてくれた。
- 教師の目の届かない、それでいて掃除範囲が広く成就感を味わいにくい外掃除がやや熱心さに欠ける。

【改善・確認事項】

★掃除のマニュアルを作成し、有効活用する。（中も外掃除も）

★「10分・もくもく掃除」の意識を教師が持つ。

（3）継続的な「挑む」「あきらめない」場≪3.1≫

「自分の目標や学級・学校づくりに挑み振り返る、継続的な場を設営する。」

【成果や課題】

- すぐに諦めてしまう児童が多いが、得意なことを見つけ褒め、粘り強く支援することで、前向きに取り組めるようになってきた。
- 児童の中に「挑む」「支える」などの言葉が浸透している。同じことを言い続ける指導が、児童には分りやすく効果があると実感する。

【改善・確認事項】

★学校全体で取り組む目標などを、児童会が定期的に掲示する。

★個人目標、グループ目標、クラス目標、学年目標等、計画的意図的に目的を設定させ、それに向かった活動と振り返りを行う。

6 自治力について

（1）丁寧な準備≪3.0≫

「児童が主体的な話し合いや活動に安心して臨めるよう準備する。」

【成果や課題】

- 各学年内で話し合いながら、協働的に準備することができた。
- 話し合いのマニュアルがあり、スムーズに話し合いができた。また、今までの積み重ねで役割を意識し、ホワイトボードなどを活用しながら児童で話し合いを進められるようになっていた。ルール作りが大切である。
- 運営委員等が、やしろっ子委員会での話し合い活動のリードをして、よくがんばっていると思う。
- 各学年内で話し合いながら、協働的に授業の準備などをすることができた。
- 様々な手法を研修で学ぶことができ、授業や話し合い活動で生かすことができた。
- 学級では、事前に話し合いをする代表者たちと一緒に打ち合わせをすることが十分にできなかった。
- 話し合い活動では、準備がぎりぎりになることが多く、安心して活動に臨めていたとは言えない。
- 教材、主題設定を考え、授業を行った。しかし、児童の主体的学びにつながらなかった。

【改善・確認事項】

★年度当初に「話し合いの仕方」を職員研修する。

★低・中・高用の「話し合いマニュアル」を特活担当から配布し、低学年から継続した話し合いの仕方が定着できるようにする。

(2) 元気な遊び集団<2.6>

「仲間とともに外で元気に遊ぶ集団をつくとともに、教師もともに遊ぶ。」

【成果や課題】

- みんな遊びの時間やわくわく班遊びで、教師も児童も遊べたのがよかった。
- たくさんの児童が外で遊ぶことができた。
- 教師も共に遊ぶことでルールが守れなくても、すぐに声かけができ、楽しく遊ぶことができた。
- みんな遊び以外はなかなか遊べなかった。
- 児童と外で遊べたことは良かったが、限れた児童しか外へ誘えなかった。
- 給食指導や宿題、学習補教などで教員自身が外へ出て遊ぶ機会が少なかった。

【改善・確認事項】

- ★**体力向上に向け、週に一度のみんな遊び（外）を実施する。**
- ★**（専科のある日にして、宿題点検を必ず終わらせて教師も参加する）**

(3) 次に生かす振り返り<3.0>

「自立と共生を視点に、話し合いや活動を具体的に振り返らせる。」

【成果や課題】

- 児童に「次はどうする」と自分で決めさせていた。次からすぐに改善されるわけでは無いが、繰り返しが大切である。
- はげみカード、話し合いシート、一日の振り返りを活用し振り返りの時間をとることができた。
- 振り返りが感想になってしまう。感想レベルの振り返りに対しては、内容を指定する必要がある。
- 時間不足で振り返りの時間が取れないときもあった。
- 児童はできたことに注目し、改善点を考えることはなかなかできなかった。「さらにどうすれば」という部分を考えさせたい。
- 教師がやってしまうのではなく、児童の自立・共生の視点を持ち、意図的に関わっていくことがより一層必要に感じる。

【改善・確認事項】

- ★**「振り返りの視点」（キーワードや書き方）を持たせ、継続的に取り組む。**
- ★**はげみカード（単元の目標、振り返りを書くワークシート）の形式の見直しを行う。**
- ★**（研究推進委員会による検討）**

その他

(1) 図書館教育

図書室使用

- ★**全学年、図書室使用の時間を決める。**
- ★**図書室の整理に、全職員で関わる。**
- ★**学年の初めに、どの学級も図書室へ行き、使用のルールについて指導する。**

朝の読書

- ★**朝読や読書貯金で読んでよいジャンルを増やす（図鑑、学習漫画、教科に関する本など）。**

★朝読は教師も読書をする。

その他

★教室に、教科に関する本も置く。学年でローテーションする。

★図書館教育担当が、研推の朝読担当になる。

★公共図書館も活用する。

(2) 学校行事

縦割り班活動

★七夕集会は、継続して行う。旬の行事として1時間実施する。

★わくわくオリエンテーリングは行わない。昼休みに遊んで5年生へ引き継ぐ。(2月) 行事

★運動会の練習、カウントの仕方については、現行通りでいく。(要協議)

★始業式、終業式は、1時間でカウントするが、早い目に終わった時はクラスで学活をする。当番や係活動などその日の内に決定し、学活の時間が増えすぎないようにする。

★卒業式の練習時間は、現行通りとする。

(3) 食育推進

食育実習

★今年度実施した、レシピや準備、栽培方法・時期について記録を残し、引き継ぐ。

★各学年で検討し、外部講師を呼び、実習の充実を図る。

栽培活動

★教師の意識と同時に、児童にも野菜の成長を頻繁に見せることや、世話の声かけが必要である。

給食

★給食を食べる時間を区切る。昼休みに給食を食べさせない。

(4) 勤務の適正化

★学習で使う挿絵やワークシートなど、データーとして残して使えるようにする

★提出期限を守って提出する。

★事前に配布された会議資料には、目を通しておく。

★学年で、一斉作業や分担をする。

(5) 縄跳び集会

★評価を実施する(体育担当原案作成)。その評価を見て、今後の取り組み方やなわとびカードの検討をする。

(6) 予算

★算数の教具で使えないものがあるので、整理する。

★年度初めに学校から配布されるもの・・・学年カラーのビニルテープ・ロッカーと下駄箱の名前シール

★委員会・クラブ・学校行事で使う色画用紙は、学校の分を使う。

★当番表で使うラミネートは、学校の分を使う。